

昨年2月に就航した木材チップ専用運搬船ステラシンフォニー。全長約200m、全幅約32m、貨物積載量約5万トンを誇る。マイクロプラスチック回収装置を搭載。



「環境に調和したものづくりを大切にす

丸住製紙株式会社

「何 とかしなければいけない」という危機感を募らせながら、工場から排出される温室効果ガスの推移を見ていました。2020年10月、政府が「2050年までに、温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする」カーボンニュートラルを宣言しました。これをきっかけに、社内でカーボンニュートラルへの具体的な議論が始まり、同年12月には、石炭からCO₂低排出燃料や非化石燃料へ転換することを掲げた「長期経営ビジョン2030」社会環境に配慮し、持続可能な社会への貢献」を策定しました。

そして現在、紙の原料であるパルプの製造過程で発生した廃液から発電する「バイオマス発電設備」と自社倉庫の屋根や遊休地に設置した「太陽光パネル」で、年間約2億3千万kWhの再生可能エネルギーを作り出しています。

製 紙業は、原料の調達から製品の納品までに、さまざまな輸送手段を使います。そこで排出されるCO₂の削減も、当社が取り組むべき大きな課題です。現在当社では、3隻の木材チップ専用運搬船を運航しています。その中でも、昨年2月に就航した「ステラシンフォニー」と8月に就航した「ステラハーモニー」は、最新鋭の環境性能を有する「エコシップ」です。従来船に比べ、一隻あたり年間約4千5百トンのCO₂削減が可能です。

「環 境に調和したものづくりを大切にす」は、当社グループの企業理念です。これまでも木質バイオマス、廃棄物の有効利用、古紙の再利用と資源の循環を進めてきました。これからもこの歩みを止めることなく、社会環境に配慮した持続可能な社会の実現に向けて、グループを挙げて取り組んでまいります。



この人に聞きました
丸住製紙株式会社
常務執行役員
生産本部副本部長
まさる
池崎 克 さん



丸住製紙株式会社
執行役員
原材料部長
まさつぐ
齋藤 政嗣 さん